

SEED (シード)

Vol.024
2024.7月

令和6年度「駒大生社会連携プロジェクト」が始動して2カ月が経過しました。今号より今年度採択された各プロジェクトの活動の様子を紹介していきます。

今年度採択されたすべてのプロジェクトの学生広報担当者から、多様な取り組みが報告されました。

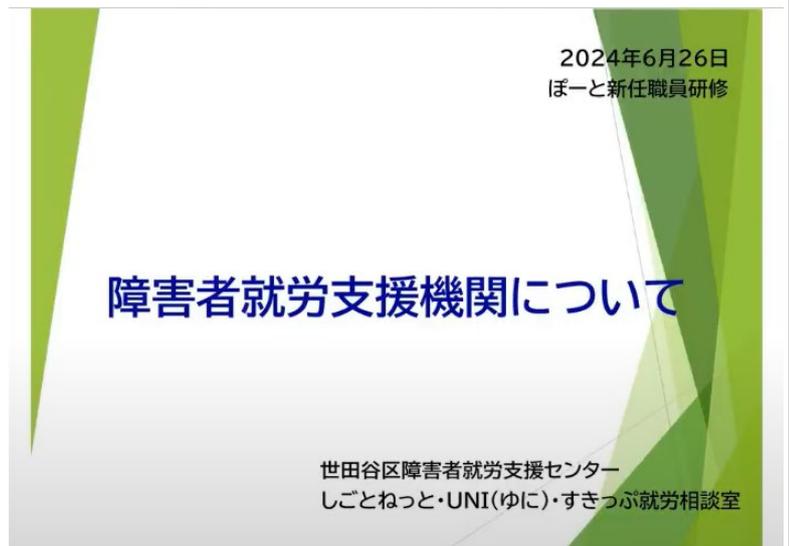
【SDGs部門】経営学部 村山 元理先生プロジェクト活動報告

障がい者の雇用に関する研究

世田谷区役所関係者による障がい者雇用に関する講演の報告

7月2日、障がい者の雇用について、世田谷区役所の関係者2名からご講演を頂いた。

社会福祉法人・東京手をつなぐ育成会／世田谷区障害者就労支援センター・スキップ就労相談室の牧嶋滋様から「障害者就労支援機関について」お話を頂いた。世田谷区障害福祉部障害者地域生活課障害者就労支援担当係長の碓井健之様から以下の事を学ぶ。40人以上の従業員のいる企業では障がい者の雇用が義務づけられていて、4月からは法定雇用率が2.5%に引き上げられた。企業の戦力として障がい者の雇用が促進されていることが期待されていて、法定雇用率を守らない企業にはハローワークから指導が入る。東京では障がい者の労働人口が24万人いて、世田谷区では令和5年度就職者数が合計146名いる。世田谷区障害者雇用促進協議会という独自の形態があり、企業や諸団体と連携している。その他多くのことを学ぶなかで、障がい者雇用は法令や行政、民間の支援団体などから支援されていることがよくわかった。



【産学官連携部門】文学部 藤野 一之先生プロジェクト活動報告

大学生による埋蔵文化財活用事業の実践モデルの構築
出土遺物などの調査を行いました

本プロジェクトに参加する学生は、6月23日(日)に群馬県北群馬郡榛東村の榛東村耳飾り館にて、ご協力いただいた本学OBの群馬県埋蔵文化財調査事業団職員とともに出土遺物や発掘調査当時の写真の調査を行いました。今回のプロジェクトでは、1976年～1979年にかけて発掘調査が実施されたものの、未報告となっている榛東村内の長久保古墳群を紹介するリーフレットを作成し、埋蔵文化財の活用を図ります。

それに先立ち、23日の調査は、本古墳群が造られた年代やより詳しい出土遺物の把握を目的に実施しました。学生らは、出土した埴輪や土器を一つひとつ確認しながら適宜写真撮影を行うと共に、埋葬施設の状況などを伝える発掘当時のフィルム写真のデジタル化を進めました。今回の調査で得られた成果をもとに、リーフレット作成を進め、10月5日(土)に長久保古墳群をテーマとした講演会を行う予定です。



【産学官連携部門】経営学部 小野瀬 拓先生プロジェクト活動報告

「ANA創業者・美土路昌一の経営理念の研究」

オープンキャンパスに向けてインフォグラフィックを制作！

小野瀬プロジェクトは「ANA創業者・美土路昌一の経営理念の研究」に取り組んでいます。7月のオープンキャンパスに向け美土路氏に関するインフォグラフィックを制作してきました。今年4月には美土路氏の研究で博士号を取得した大木由美子先生から講義を受け、続いて6月にはANAホールディングス株式会社秘書部担当部長の辻村貴之氏から現在のANAについてのお話を伺いました。

美土路氏を選出した理由の一つに、新型コロナウイルスの世界的な影響があります。多くの企業が雇用問題に直面する中、ANAは従業員の雇用を守ると宣言し見事危機を乗り越えました。この姿勢の源には美土路昌一の「現在窮乏、将来有望」の経営哲学が根付いています。私たちは大木先生と辻村氏の講義内容を基に美土路氏の経営理念をインフォグラフィックで視覚的に表現しました。



オープンキャンパスの参加者には、美土路氏の経営理念をより深く理解していただける機会になれば幸いです。



【SDGs部門】医療健康科学部 村田 渉先生プロジェクト活動報告

自作の放射線学習支援教材を用いたリテラシー教育の実践と普及
世界に通用するカードゲームで実践講義を開催しました

私たちは、自作の放射線学習支援教材を用いたリテラシー教育の実践と普及を目的として活動を行っています。5月には、大学1・2年生とタイのRangsit大学の学生において、それぞれ実践講義を行いました。特に、英語での説明・進行は、初めての挑戦であったので、始まる前はとても不安でした。しかし、実際始まると大いに盛り上がり、タイの学生と交流を深めることができた貴重な経験となりました。また、実施後のアンケートでは多くのポジティブな結果が得られ、世界にも通用するカードゲームであると実感しました。



大学1・2年生に向けた実践講義の様子

さらに、6月には駒澤大学高等学校に行き、「放射線防護カードゲーム」と「放射線ブラックジャック」を実施しました。想像していたよりも沢山のご質問をいただけたことや面白かったなどの感想を頂けて、実りのあるものになりました。

7~9月にかけて、オープンキャンパス、学会発表などの様々な活動があるので、それに向けて準備を進めていきたいと思えます。



タイの学生に向けた実践講義の様子

【SDGs部門】経営学部 青木 茂樹先生プロジェクト活動報告

SAP (サステナブル・アクション・プロジェクト)

班ごとに多様な活動を展開中！

私たちのプロジェクトでは班ごとに駒大生社会連携プロジェクトの助成金を活用し、それぞれの活動に取り組んでいます。

フードロス班では、グーグルマップを使ってサステナブル飲食店と協賛して活動を行いました。フリマ班では、リユースに参加するきっかけとなるイベントを開催し、多くの集客に成功しました。ゼロ・ウェイスト班では徳島県の上勝町に赴き、体験を通して学内のサステナブル推進のための提案を行いました。サステナブルマインド班では仏教・禅思想の中にサステナビリティの要素(サステナブル・マインド)を再認識し、各プロジェクトと連動することでSDGs活動の定着を目指しています。ダイバーシティ班では、ダイバーシティ推進に向けた会を開催するための準備を行っています。広報班では、各プロジェクトの広報活動を行い、社会連携や社会貢献がより周りに広がり、伝わるよう活動を続けています。また、YouTube活動をしている綿貫社長をお招きしたイベントも開催しました。



駒澤大学の社会連携に関する最新情報は、
社会連携センターのホームページでご案内しております。 → 社会連携センター「[お知らせ](#)」